

ようこそ、「火の国」くまもとへ。

熊本県は九州のほぼ中央に位置し、東には世界最大級のカルデラを持つ「阿蘇」、西には大小の島々からなる「天草」、と山あり海ありの豊かな自然に囲まれ、その自然が育むおいしい食べ物に恵まれています。また、熊本県の水道水源の約8割は地下水で、蛇口から天然のミネラルウォーターが溢れ出る「水の国」であり、源泉118カ所を誇る「温泉王国」でもあります。

地域で生活する人々が生涯を通じ健康で安心して暮らせるよう、熊本県では日々たくさんの方が公衆衛生行政に取り組んでいます。全国的な問題でもある少子高齢化、そして医療介護福祉の人材や資源の偏在などの課題を熊本県も抱えており、それぞれの地域の特性に合った多様かつ柔軟な取り組みが必要とされています。

平成28年4月に発災した熊本地震では、多くの人命と貴重な財産が失われました。全国から支援をいただきながら、熊本県は引き続き総力をあげて復旧・復興に取り組んでいます。7か月にわたった避難所運営支援、そして応急仮設住宅などこれまでと異なる環境での生活を強いられる人々への支援、これらの取り組みを通して、わたしたち公衆衛生医師は、あらためて「公衆衛生の力」の大切さを感じています。受援の立場での熊本県の経験を今後にも少しでも役立てていただくべく、取り組みをスタートしています。

高度経済成長期、利益・効率優先の時代に熊本でもとりわけ美しい不知火の海で発生した水俣病は、今なお被害者の方の苦しみが続いており、人の命・健康や環境を何よりも大切に考えなければならないという教訓を世界に示しています。熊本県は、健康被害、環境汚染、差別・偏見に対する取り組みを続けており、また、水俣市は1992年に「環境モデル都市づくり」を宣言、2011年には日本で唯一の「環境首都」の称号を得ています。どの国でも同じ悲劇を繰り返してはならないと、2013年には熊本県で世界139か国が出席した外交会議が開催され、「水俣条約」が全会一致で採択されました。

これらの熊本県が抱える課題に対し、公衆衛生の視点から丁寧に事業を進めていくことが求められており、公衆衛生医師のリーダーシップへの期待が年々高まっています。これから公衆衛生を志す医師の方が「熊本県公衆衛生エキスパート」として成長し

存分に活躍いただくことを期待し、また、「自分が研修するとしたら、こんなプログラムがいいな」ということを念頭に置き、現職の公衆衛生医師が中心となって、熊本県社会医学系専門医研修プログラムを作成しました。専門研修で主となる実践現場は、県庁健康福祉部と県内10か所の保健所です。県庁では県全体を俯瞰し大きな事業に取り組むことができます。また、公衆衛生現場の第一線にある保健所では、日々、地域の健康課題、環境衛生問題に向き合い、学ぶことができます。公衆衛生は「社会を診る医学」です。他の分野も幅広く学び、広い視野を身につけることが大切です。熊本県の保健所は、「地域振興局」の中の「保健福祉環境部」として位置づけられており、地域の中で、農林部や土木部、総務部と協働して、組織横断的にダイナミックに活動を展開することができます。こうした現場、フィールドでの活動を学術的に検証するため、熊本大学をはじめとする教育機関、研究機関と協力し、研修できる体制を整えています。

豊穡の大地広がる菊池川流域の古代遺跡群、清正公(せいしよこさん)の築いた壮麗な熊本城、剣豪 宮本武蔵が「五輪書」を著した霊巖洞、西南の役の激戦地であり日本赤十字社発祥の地となった田原坂など、熊本県は歴史のロマンにも満ちあふれています。九州の「へそ」として、新幹線、高速道路、熊本都市圏近郊の空港と、交通の利便性にも優れ、生活の場所としてもとても暮らしやすいところです。

熊本県で、ぜひ、公衆衛生を学んでみませんか。



ヒゴタイ (熊本県保健所長会医師による撮影)